

北杜市公共施設等総合管理計画等検討委員会（令和4年度第1回）会議録

会 議 名：北杜市公共施設等総合管理計画等検討委員会（令和4年度第1回）

開催日時：令和5年1月26日（木） 午後1時30分～午後3時30分

開催場所：北杜市役所 西会議室

出席者：[委員] 藤原真史、小川昭二、矢野 望、船木 良、
村田 茂、小池雅美、深澤文長（敬称略）
（欠席）植松耕三、片田 興、小野光一

[事務局] 上村市長、小林副市長、宮川北杜未来部長、中田企画部長
川端下政策推進課長、行政改革担当 仲山、坂本、有賀

[委託業者] 株式会社パスコ（リモートによる参加）：与、船場、堀江、田宮

議 題：（1） 北杜市公共施設等総合管理計画（改訂版）について
（2） 北杜市公共施設個別施設計画の策定について
（3） その他

公開・非公開の別：公開

傍聴人の数：0人

会議録署名委員：小川昭二、矢野 望

1. 開会
2. 委嘱状の交付
3. 委員長あいさつ
4. 議事（議長 藤原委員長）

議 題

（１）北杜市公共施設等総合管理計画（改訂版）について

- ・事務局より、北杜市公共施設等総合管理計画（改訂版）について説明した。

（質疑応答）

- 委員 : データ等から、本市の将来的な課題について、特に、本市が他市と比較して過剰な施設を保有していることが理解できましたが、課題は理解できても、実際に具体的な施設の廃止や統合の各論に話題が移ると、賛同を得るのが難しくなるのが実情です。市民は利用する施設に愛着を持っているため、そこから生まれる総論と各論の調整が難航します。資料1のp.6の人口分布について、居住する地域を図中赤色の人口が多い地域に限定し、そこに団地などを整備し都市機能を集中させるような都市計画があれば、より便利な地域に人を呼び込めるのではないのでしょうか。居住誘導を行い、周囲にインフラを整備し、そこに集中的に投資するような都市計画、つまり、人口が減少する将来像を踏まえた適切な都市計画や理想的なまちづくりのあり方を示してほしいです。
- 委員長 : 将来像を踏まえ、積極的な都市計画を考えてほしいということですね。
- 委員 : その通りです。例えば、ホール機能はやまびこホールに集約し、イベント開催時にバスやタクシーで利用者を送迎する形にすれば、ホールは1施設に統合できるのかもしれませんが。
- 事務局 : おっしゃる通りだと思います。まず、総合管理計画は、現状を踏まえて将来に向けての道筋を立てる計画であり、現状規模の維持は難しいという結論でありました。これまでの計画は、計画期間が5～10年のものが多く、それでは長期的な視点に立った施策の検討ができません。個別施設計画は、これまでの計画と比べ大幅に長い30年間における今後の公共施設の規模に関して議論する計画となります。本市のまちづくりについては、計画期間が2034年までの北杜市まちづくり計画が既に策定されています。従って、今後個別施設計画を踏まえてまちづくり計画を見直すことで、未来に向けて道筋を作ることになります。
- 委員長 : 市のありたい姿を目指す過程で痛みを伴うものの、目的に向かう様子を市民にわかりやすく伝えていただきたいです。
- 委員 : 概要版のp.6に、公共施設マネジメントの取組体制が載っておりますが、

改訂後の市民からの反応を教えてください。また、推進本部の開催状況についても教えてください。

事務局 : 総合支所については、今年度再編を行い、各支所の人員配置に変更がありました。6月に各支所への聞き取り調査を行いました。特に意見はありませんでした。また、教育委員会については、小中学校や図書館の再編に対する市民の質問などが得られています。

推進本部は、今年度2回開催しております。1回目は、個別施設計画策定や、施設の劣化状況調査の実施に向けた周知、2回目は、調査結果の集約や、来年度以降の具体的な検討に向けた意思決定を行いました。

委員 : 市民と最前線で対峙する総合支所や教育委員会の声はしっかりと聴いてほしいです。また推進本部は計画推進の要になるので、しっかりと議論をしてほしいです。

次に、総合管理計画における課題3点のうち、老朽化の状況についてはわかりやすくまとめられていると感じました。財政的な課題についても認識はしております。3点目の、人口減少や人口構成については理解できますが、人口と施設管理を関連づけた分析が必要なのではないかと考えております。

委託業者 : 人口減少は施設利用者数の減少にも直結しますので、引き続き検討を進めます。

(2) 北杜市公共施設個別施設計画の策定について

・事務局より、北杜市公共施設個別施設計画の策定について説明した。

(質疑応答)

委員 : 市の現状や課題は十分に理解している一方で、できるだけ施設は残してほしいという気持ちもあります。例えば、図書館を再編し中核となる図書館3館程度を残すとすると、残る施設と廃止される施設が分かってしまい。そうではなく、高齢者の利便性を考慮し、3館残すとしても市内全域から行きやすい配置を考えてほしいです。

また、財源不足を理由に施設の配置を見直すのではなく、財源を増やせるような政策も考えてほしいです。公共施設のための財源確保に向けて、市外への北杜市のPRや、ふるさと納税の拡充なども検討してください。すでに今後の方向性に関する検討を始めている施設類型もあるとのことなので、類型毎にそれぞれの有識者や周辺住民の意見も反映するようにしてほしいです。

委員長 : 様々な市民の意向を計画に反映してほしい、また財源確保に取り組んでほしいとの意見であると思います。また、学校や図書館については、別

の審議会で専門的な知見に委ねていくわけですが、そこでの議論は、総合管理計画や行革大綱の目標を踏まえて議論しているのでしょうか。

事務局 : 財政的な課題についてですが、施設再編の大きな目標が財源の確保です。施設のみではなく、制度面での合理化も図っていく所存です。限りある施設をどれだけ有効に使うのか、という視点が重要になります。基本的に、総合管理計画の削減目標において、方向性はすでに示しているため、その具体化について教育委員会が教育効果や部活動のあり方などの専門的見地を踏まえて総合的に判断するものだと認識しております。

委員 : 中学校適正規模審議会は、今年度3回開催されており、財政面だけで検討を進めるべきではないという意見が多く、教育論に関する議論についても幅広く行われ、小中一貫校のメリットやデメリットの検討なども行われました。学校規模と児童生徒数の在り方についても議論の余地は多々ありますが、多くの市民の考えを問うべきとの考えです。規模縮減や老朽化対策の必要性は十分認識しておりますが、縮減ありきで検討することに危機感を感じており、統合によって得られる教育的効果についても関心があります。児童・生徒数は市全体で減少傾向にあり、小学校児童数の減少による規模縮小のデメリットを個人的にも感じています。近頃は、他学区の中学校に行きたがる児童が増えています。市内で唯一複数クラスを有する中学校への進学希望者が多いのですが、これは、クラス替えによる新しい人間関係の形成や地元中学よりも多彩な部活動などに魅力を感じている児童が多いことの裏返しであると思います。こうしたことから、様々なご意見を持たれている方がいることは承知の上ですが、統合によるメリットが大きいと判断することが個人的には自明だと考えています。

委員長 : 個別施設計画を策定するまでの間に、学校や図書館の再編の方向性も定まるようなスケジュールになっているという認識でよいのでしょうか。

事務局 : 中には、計画期間がずれているような計画も存在します。個別施設計画策定期間に結論が出ない場合は、「それぞれの該当する計画において検討」といった表現とします。

委員 : 昨年の総合管理計画策定時における会議において、市民への説明をしっかりと行ってほしいという意見に対する事務局の回答は、「個別施設計画策定時に意見を聴取する」といったものでした。また、「40%削減という数値目標に対する理解を得ていく必要があります、それに対して取り組みを行っていく」とのことでした。ここ1年の説明会などでの反応を教えてください。

事務局 : 地域委員会と行政区長会を通じて説明を行い、そこでの個々の問い合わせ

せに対応しました。一般市民向けでは、市長と語る会において議論をしていくほか、来年度にはパブリックコメントも実施します。

委員 : 市長と語る会ということは、個別施設計画は行政改革大綱の一部という認識でしょうか。

事務局 : 市長と語る会においては、総合計画、新・行政改革大綱、中学校の再編整備それぞれに関して個別に説明する予定なので、その中で個別施設計画についても言及する予定です。

委員 : 本委員会での資料が、課題意識や削減目標についてとても分かりやすくまとめられています。40%削減の必要性を納得していただけるような資料を、市長と語る会においても提示できると良いのではないのでしょうか。

事務局 : 本委員会での資料は、個別施設計画を策定していく中での構想段階の資料なので、アンケート実施時や住民説明の場での活用を検討しています。

委員長 : パブリックコメントで初めて知ったという状況は避けたく、検討段階に応じて市民の意見や要望を聞くような機会を得て、参考としてほしいです。

委員 : 私は、中学2年生時に中学校の統合がありましたが、自身のこれまでの交友関係などを振り返ると、統合に対して良い印象を持っていたため、以前小学校の統廃合を行う際の委員長を引き受けた経緯がありました。しかし、統合については、現状のデメリット又は小規模校のデメリットのみを列挙して統合ありきで検討を進めており、児童の中には統合に悪い印象を抱いていた人もいました。事務局には、現時点のメリットを挙げたうえで、デメリットや課題を挙げるような話の進め方はできないのでしょうか。現在のデータを用いた説明だけでは、統合ありきの弁明やデメリットに伴う不安を煽るような内容になってしまっているのでは、それだけではなく、具体的な思いや誠意を感じられるよう、検討を進めてほしいです。

事務局 : 30年後の将来世代に負担を先送りしないという思いで本計画策定に取り組んでまいります。

委員長 : 危機を好機に変えられるよう取り組んでいるという職員の思いが伝わるような計画策定ができればよいと思います。

委員長 : 保有すべき総量について、類似団体と比較するのは通常の作業であります。同規模面積の自治体でも同様の作業は行わないのですか。

事務局 : 面積を加味した検討も実施します。

委員 : 40%程度の施設総量削減に向けた具体的な方策に関して、30年間で段階的な削減を実施するための具体的な手法について教えてください。

事務局 : 第一に施設所管課に各施設に必要な最小構成の検討を進めていただき、その後政策推進課で調整を行います。

委員長 : 他自治体における個別施設計画への市民参加の事例のご紹介をお願いします。

委託業者 : 市民参加の事例としては、まずアンケートが挙げられ、総論に対する賛成者の割合を集計し、確固たる数値として提示します。その他、ワークショップで施設の複合化を検討するためのグループワークの実施や、公共施設マネジメントの専門家を招いた市民説明会や講演会を設けることもあります。具体的な複合施設の整備に向けた施設のあり方を検討する際は、施設利用者や利用団体に直接意見を伺うこともあります。

委員長 : こうした事例を踏まえ、市民参加の仕組みの中で、いきなりパブリックコメントの実施にならないよう、計画策定の過程においても丁寧な合意形成の場を設けてください。

委員 : 新聞にて、図書館を全て残してほしいという意見が書かれた記事がありました。検討委員会の方向性との兼ね合いはどのようにしますか。

事務局 : 図書館3館に中核的な機能を集約し、残り5館は読書スペースや読み聞かせスペース、貸出窓口などの補助的な役割とします。後者は新刊書を入れるのではなく、他の図書館で処分されるような蔵書を取り入れます。8館が3館に統合されるという検討はされていません。現状の8館はいずれも機能が不足しているので、中核的な3館に専門図書を蔵書するなど機能強化を図る予定です。

委員 : 本委員会の任期は令和5年度末、令和6年3月31日までということでしょうか。

委員長 : 要綱に基づき、現委員は残り2か月で一旦任期が満了し、そのあと4月から新たな委員が委嘱されるという認識で問題ないですか。

事務局 : 委員長の発言のとおりです。

委員長 : 資料について質問がある場合は、事務局まで追って連絡してください。事務局は、そこでの意見も踏まえて検討を進めるとのことです。

(3) その他

事務局 : 本日頂いた意見をもとに、引き続き検討を進めます。次回委員会は今年3月の実施を目途に、別途通知させていただきます。

5. 閉会

以上